



転売は悪いことなのか

大分県・大分東明高等学校 2年 阿南 悠乃

ある子ども向けのおもちゃが今、全国で在庫不足になっている、というニュースを見た。そのおもちゃは小学生を中心に大人気の商品で、生産数が少ないために店頭で並ぶとすぐに売り切れてしまい、購入できないこともあるそうだ。そうした中で、転売を目的にそのおもちゃを買い占める大人がいる、ということが問題になっている。ある会社員の男性は早朝から店に並び、友人に協力してもらってそのおもちゃをまとめ買いすることに成功していた。インターネットで転売すると一個あたり数千円の利益になるらしい。おもちゃを買えなかった子どもたちは「欲しくないのなら買わなければいいのに」と、インタビューに答えていた。

このニュースを見て、私は最初、子どもたちと同じことを思った。朝から並んで買いに行くほど欲しかったものが売り切れていたら残念だろうし、それを欲しがっているわけでもない大人に買い占められていたと知ったら、悔しい気持ちにもなるだろう。たかがおもちゃとは言え、自分の数千円の利益のために子どもを利用する大人は汚いと思う。

そして一方で、メーカーがそのおもちゃの生産数を増やせばよいのではないかと考えた。一緒にテレビを見ていた私の父親も、「いっぱい作ればいいじゃん」と言っていた。欲しがっている人が全員商品を手に入れることができるぐらいに生産数を増やせば、転売する大人もいなくなるだろうし、すべて解決するのではないかと。

しかしその話のあとその番組は、「どうして商品を大量生産してはいけないのか」という内容になった。どうやら過去にも同じようなことがあったらしく、当時大流行だった商品を大量生産し、出荷したところ、ブームが去り、在庫が余ってしまったそうだ。メーカーは徐々に生産を増やしていくつもりではあるが、過去と同じ失敗を繰り返さないように、いきなり大量生産はしないらしい。

さらに調べてみると、経済的な視点からも、生産数を少なくし、不良在庫を抱えないようにしたほうがよい理由があるということが分かった。一つの商品が流行する期間が以前に比べて短くなっていることや、「数量限定」など「限定」とすることで消費者の購入意欲をかき立てる効果があるということ、が主な理由である。メーカーにしてみれば、今後の需要量を予測して生産計画を立て、大きな在庫を抱えないようにすることが最も重要なのだ。

私はニュースの解説やインターネットの記事を読んで、経営や生産数の調整とは難しいものなのだなと思った。私が考えていたように、人気のある商品の生産をどんどん増やし、たくさんの人に買ってもらえばよい、というものでもないらしい。むしろそうすることは、商品の価値を下げ、流行が終わったあとにメーカーが不良在庫を抱えてしまうことにつながる。不景気だからといって、お金を大量に発行すればインフレーションが起こるということに似ていると思った。メーカーは自分たちが損をしないように、つまりは利益を出そうと工夫しているのである。

しかし、利益を上げようとしていることに関しては、先程の大人たちもメーカーと同じはずである。大人たちがもうけようとするのは当然と言えば当然のことだ。それなのにどうして、大人たちの行為は良くないと感じるのだろうか。

定価、つまり商品の本来の価格を決めるのはメーカーなのだが、実際に販売するときの価格は、販売している店が決めて良いということになっている。仕入れたあとで値段を変えて良いのだ。定価は、商品のブランド的な価値を維持することなどを理由に高く設定されることが多い。したがって小売店は他の店と競争するために、実際の販売価格を定価よりも安くすることがよくある。購入する人がお得だと感じてくれるように、である。転売を目的とした大人たちも、小売店の一種だと考えれば、そこまで非難することではないのかもしれない。自分たちの利益のためとは言え、販売価格を定価よりも高くすることは法律的には問題がない。大人たちのせいでおもちゃを買えなかった、または定価よりも高いお金を出さなければ買えなかったという子どもたちが怒るのは、わがままであるとさえ言えるだろう。

商品の価値というのは結局、購入する人が決めるものなのだと思う。自分が欲しいと思ったものが、それに見合った値段で売られていれば買うし、高いと



思えば買わない。期待していたよりも安い値段で買うことができればもうけたものである。子どもたちは、おもちゃが買えなかったことというより、おもちゃを欲しがっているわけでもない大人たちに買い占められたことに怒っていた。大人たちは転売することによって商品の価値を勝手に変えた。子どもたちは、定価より高いお金を払ってでもおもちゃが欲しいと思えば、転売されているものを買うだろう。そしてそのような子どもたちがたくさんいる限り、転売を行う大人たちはいなくなる。大人たちの行為は法律上の問題はないが、子どもからお金を巻き上げるのは良くないと思うし、子どもたちが可哀想だとも思う。大人たちがもう少し良心を持ち、このようなことをなくして欲しい。また、あるネットの記事には、おもちゃが手に入らないというのは、子どもの成長のための良い機会ではないか、とあった。ものがあふれている現代の日本で、欲しいものが手に入らない、というのは珍しい。子どもたちも、転売されている商品にとびつくのはやめて、冷静になることが必要なのかもしれない。

